

もっと伝えよう がん登録 —甲状腺がん—

広島市立広島市民病院
医療支援センター 診療情報管理室

梅本 礼子

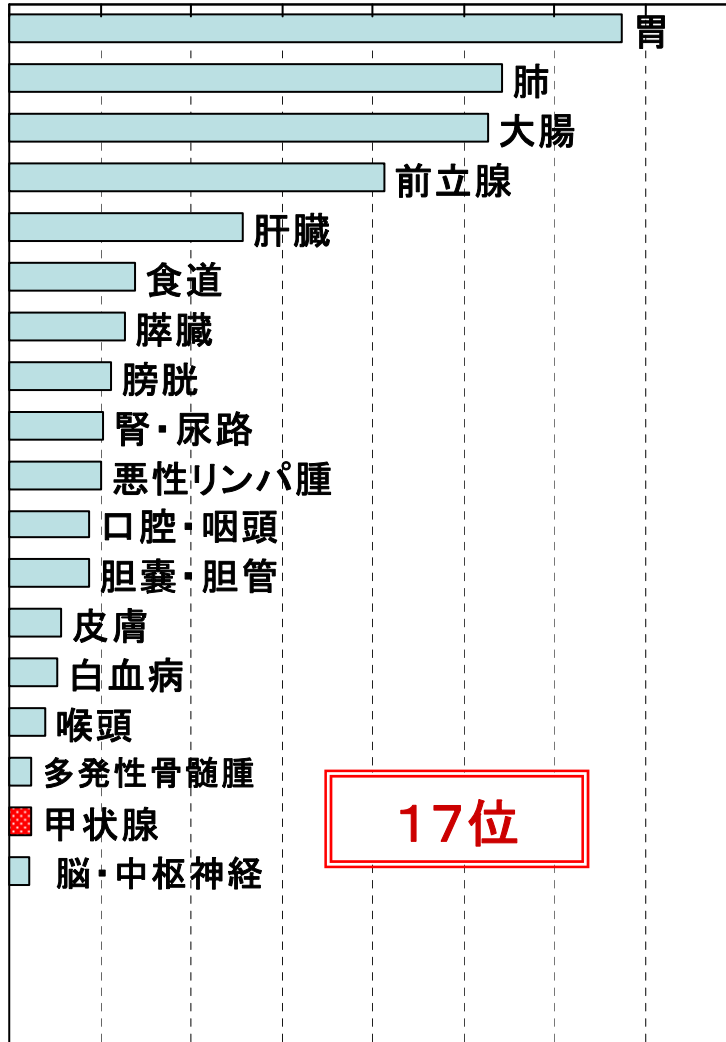
国立がんセンター院内がん登録中級者
国立がんセンター院内がん登録指導者
国立がんセンターがん登録実務者研修専門家パネル委員

症例区分	生存率を算定する上で対象となる症例範囲を決定する区分 症例区分2: 診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例 症例区分3: 他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行がなされた症例。 上記を集計対象とし、算出することとする。
治療前ステージ	UICCの定めるステージング方法に基づき、何らかの治療の行われる以前につけられた病期を指す。 我国の通常臨床現場で使用されるがん取扱い規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。 癌腫が分類の対象となっていることから、組織診断名コードをもとに、肉腫やリンパ腫、カルチノイドを除いて集計している。
治療	登録対象となったがんに対する初回治療である。
初回治療	治療開始時点で計画された一連の治療のことであり、症状・治療の進行に従って後に追加された治療は含まれないことに注意する必要がある。特に当初、経過観察が計画されて病状が悪化したために治療が行われた場合も初回治療はなしとなる。初回治療として計画されていても、他院で施行されたものは登録されず、登録施設で行われた治療のみが登録対象となる。症状緩和的な目的でおこなわれた手術や放射線治療も部分的に腫瘍に対する治療であるといえることから、登録対象の治療に含まれる。

部位別がん罹患率 2008年 (人口10万対)

0 20 40 60 80 100 120 140 160

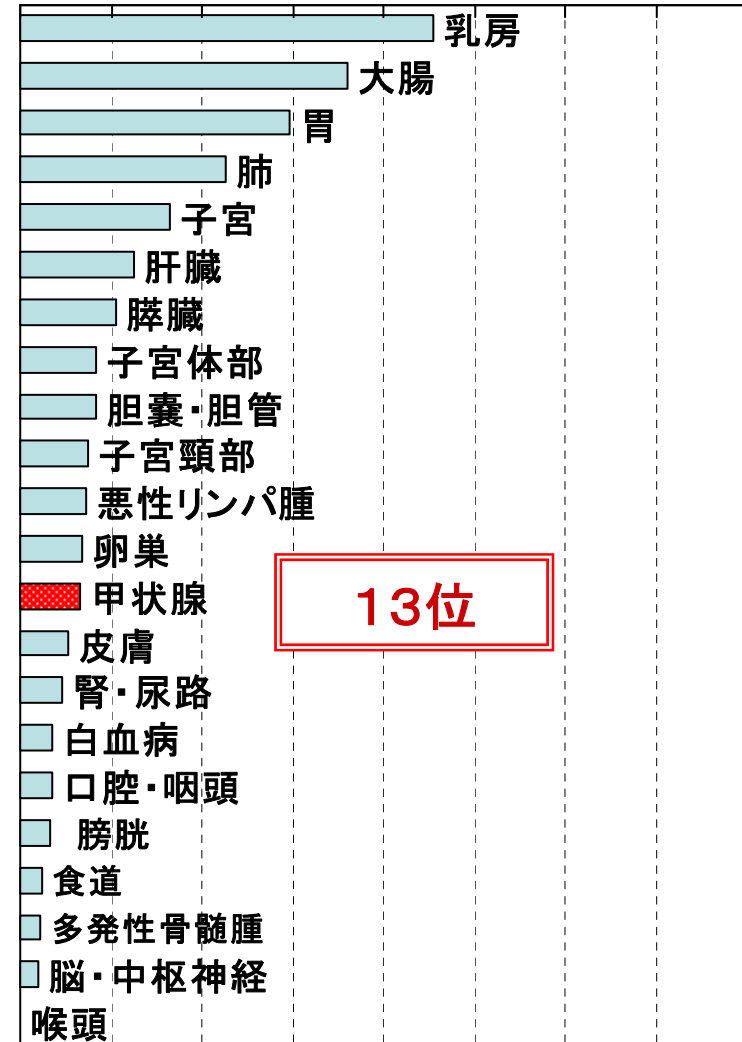
男性



17位

0 20 40 60 80 100 120 140 160

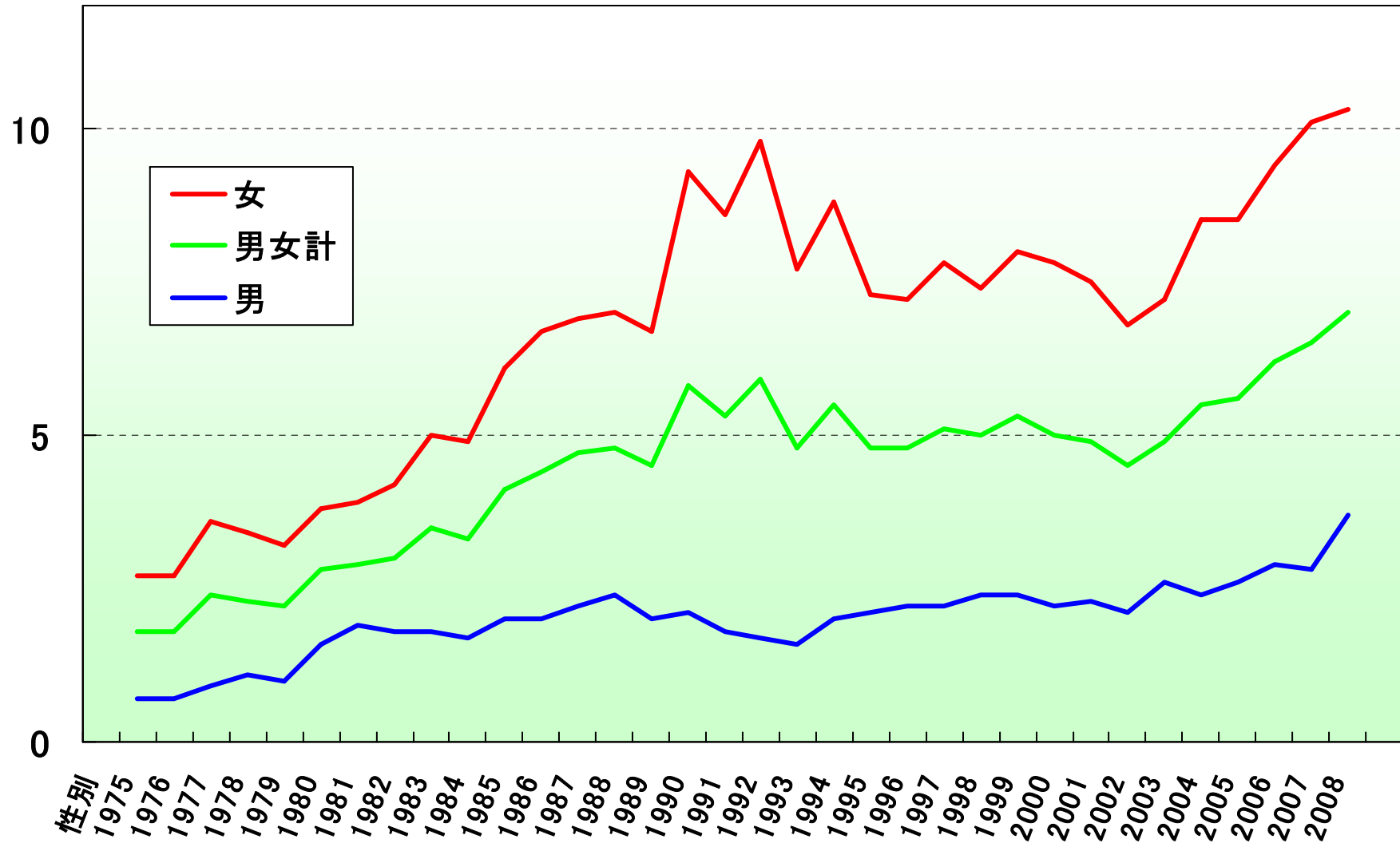
女性



13位

出典: 国立がん研究センターがん対策情報センター
Cancer incidence(1975-2008)

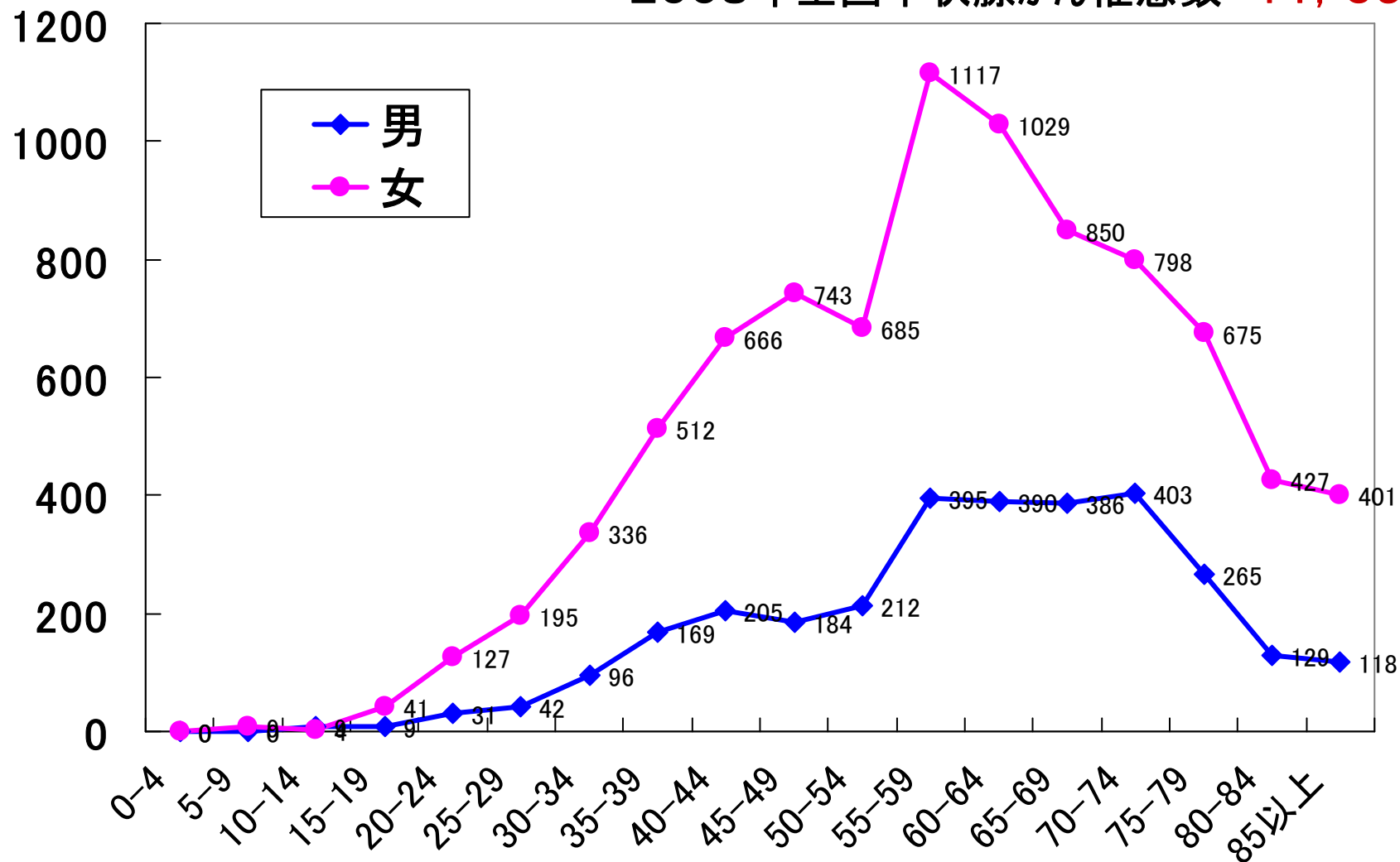
全国推定年齢調整罹患率(甲状腺がん)
 (対人口10万人)(昭和60年日本人モデル人口)



出典: 国立がん研究センターがん対策情報センター
 Cancer incidence(1975-2008)

全国年齢階級別性別推定罹患数

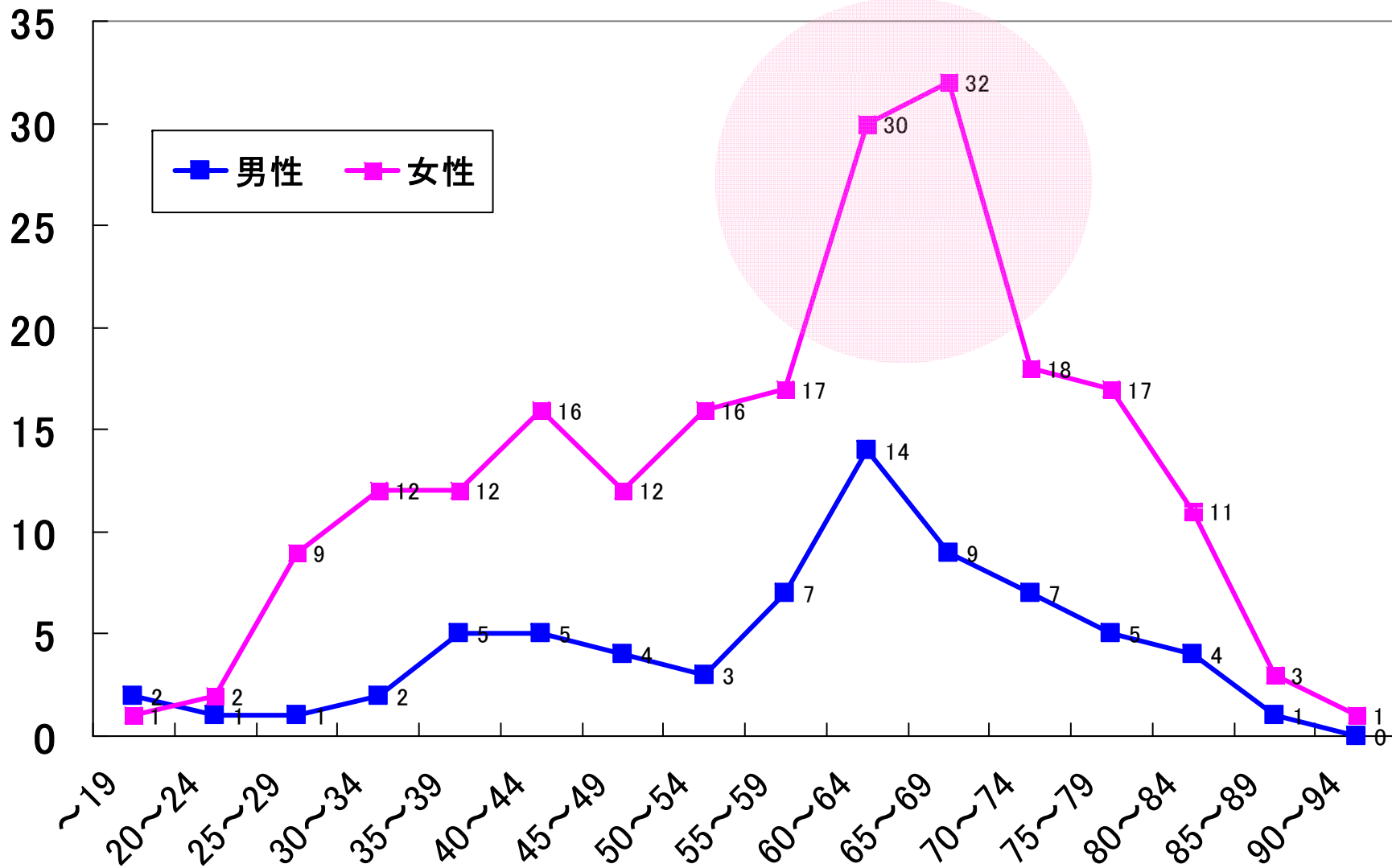
2008年全国甲状腺がん罹患数 **11,658**



出典：国立がん研究センターがん対策情報センター
Cancer incidence(1975-2008)

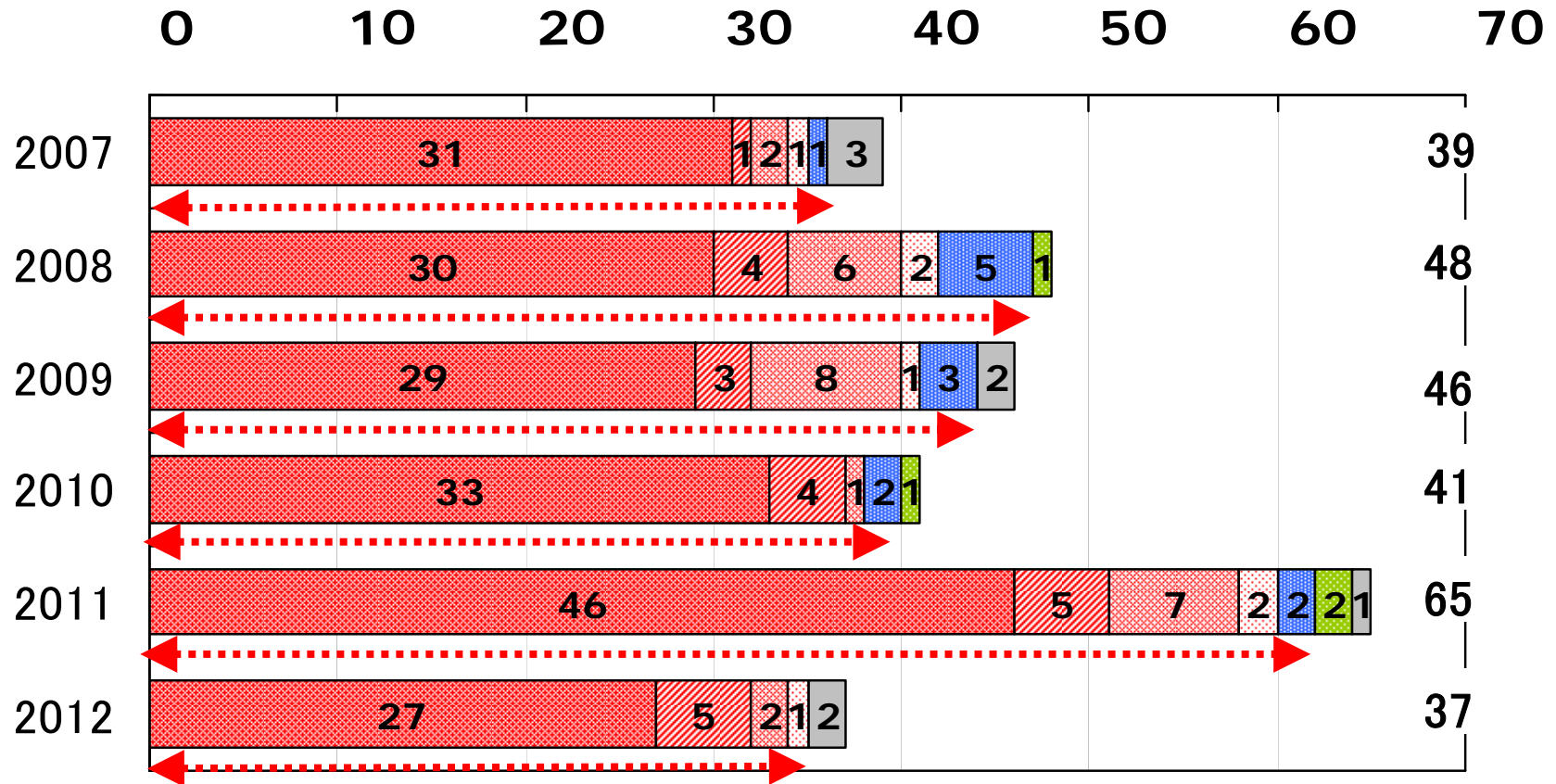
院内がん登録 甲状腺がん 性別年齢階級別罹患数

2007年～2012年
276例



院内がん登録 甲状腺がん 症例区分別登録数推移

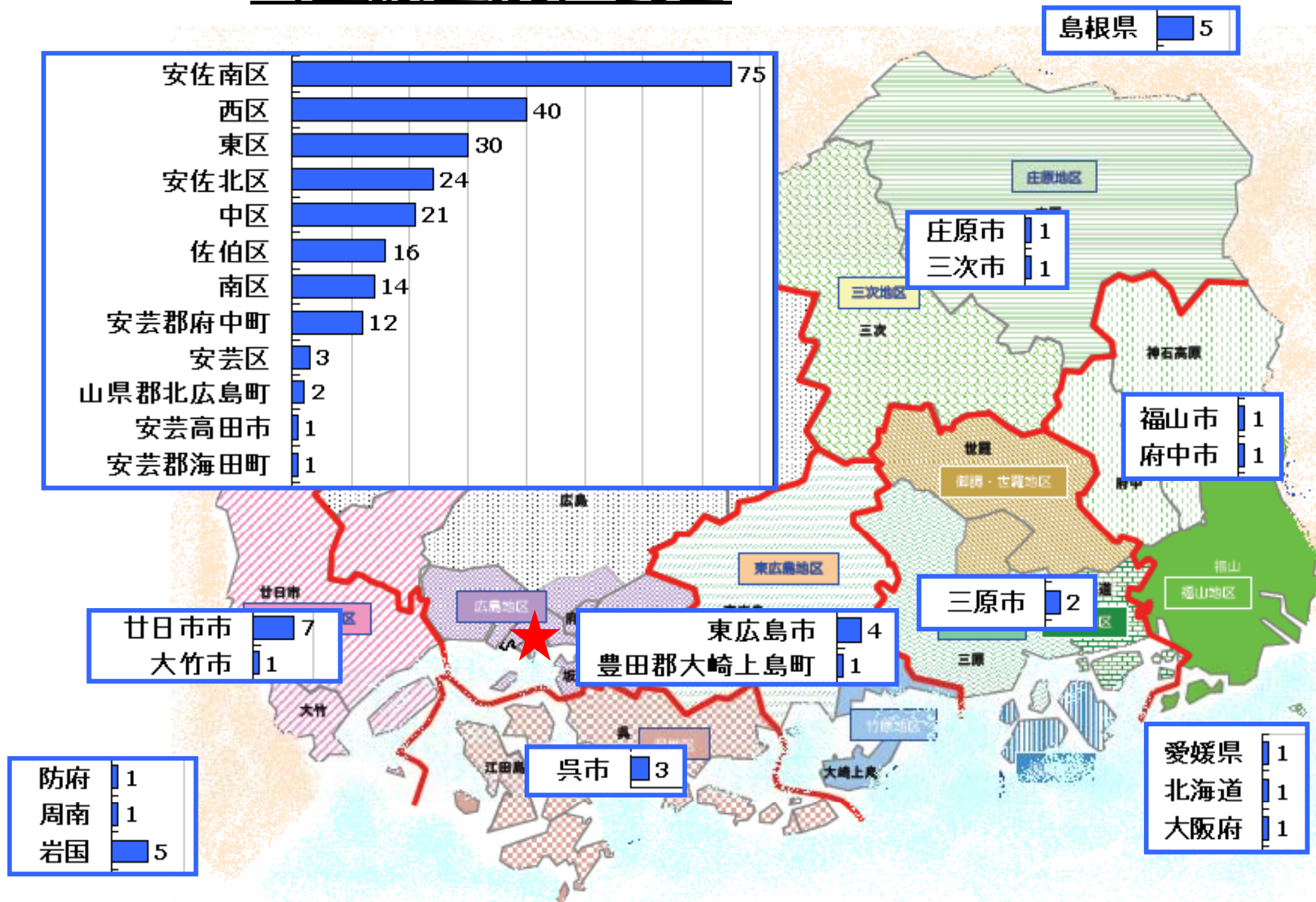
2007年～2012年
276例



- 自施設診断ならびに初回治療施行
- 他)診断後、自施設初回治療施行
- 他)初回治療施行後、自施設継続治療、もしくは再発
- 自施設診断後、経過観察
- 自施設診断後、他施設へ紹介
- セカンドオピニオン
- 自施設診断後、来院中断

甲状腺がん患者さんの居住地域別 (医療圏別) 割合

2007年～2012年
276例

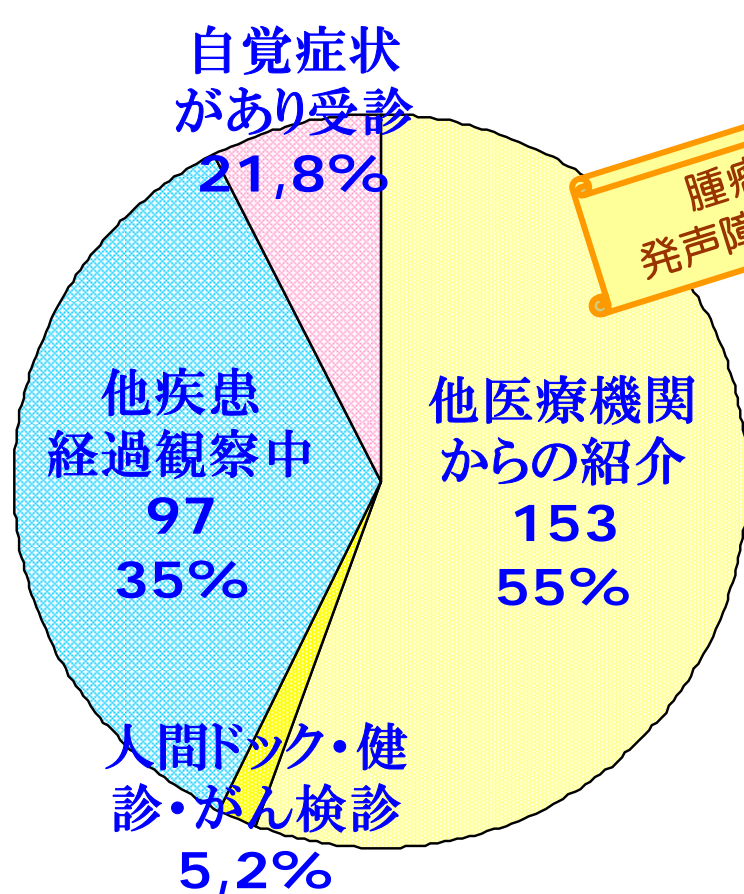


院内がん登録 甲状腺がん登録数

2007年～2012年
276例

来院経路

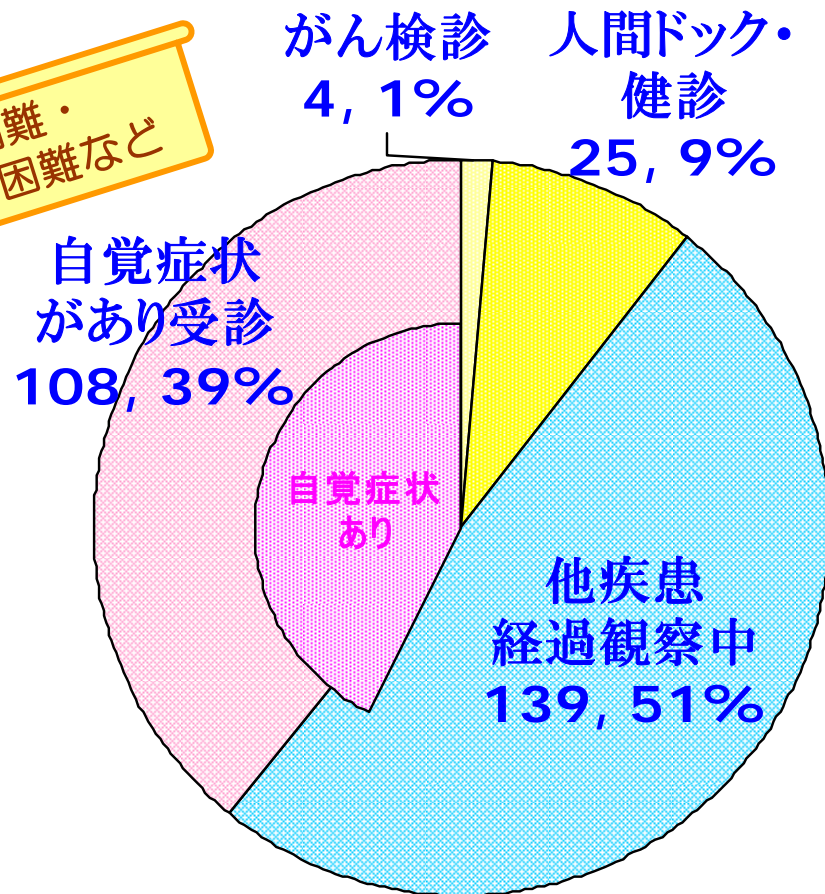
(患者さんはどこから来られたの?)



腫瘍・呼吸困難・
発声障害・嚥下困難など

発見経緯

(どうして癌が見つかったの?)

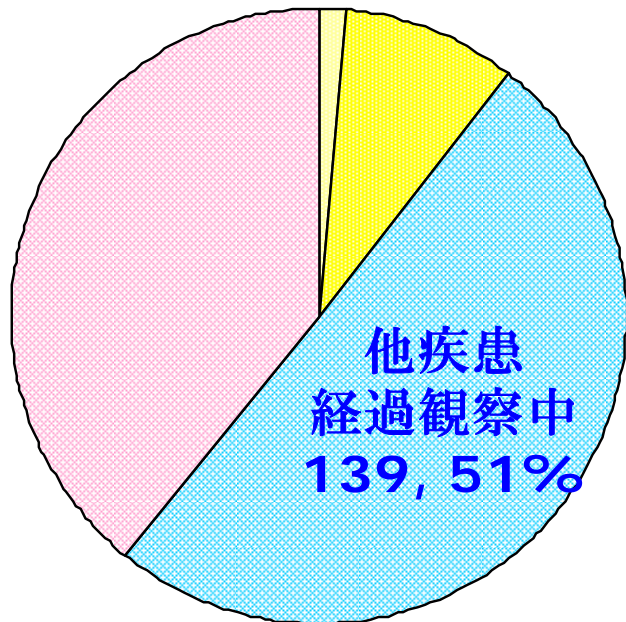


院内がん登録 甲状腺がん登録数

2007年～2012年
276例

発見経緯

(どうして癌が見つかったの?)



甲状腺腫瘍、他 50症例
乳癌 21症例
肺癌 10症例
他の癌 15症例
循環器疾患 13症例
DM 10症例
その他 20症例

—主な検査—

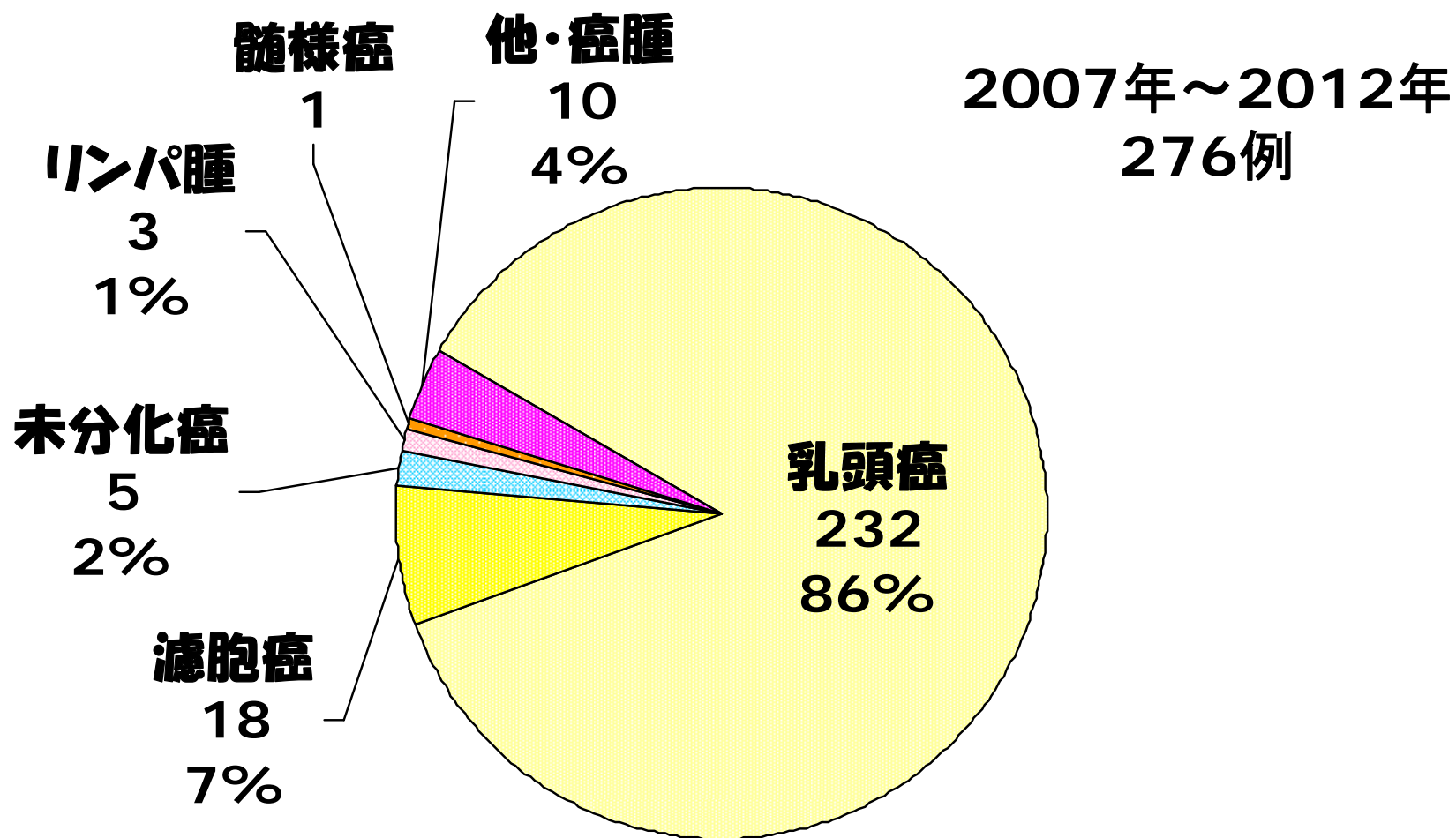
超音波

PET

CT

組織診

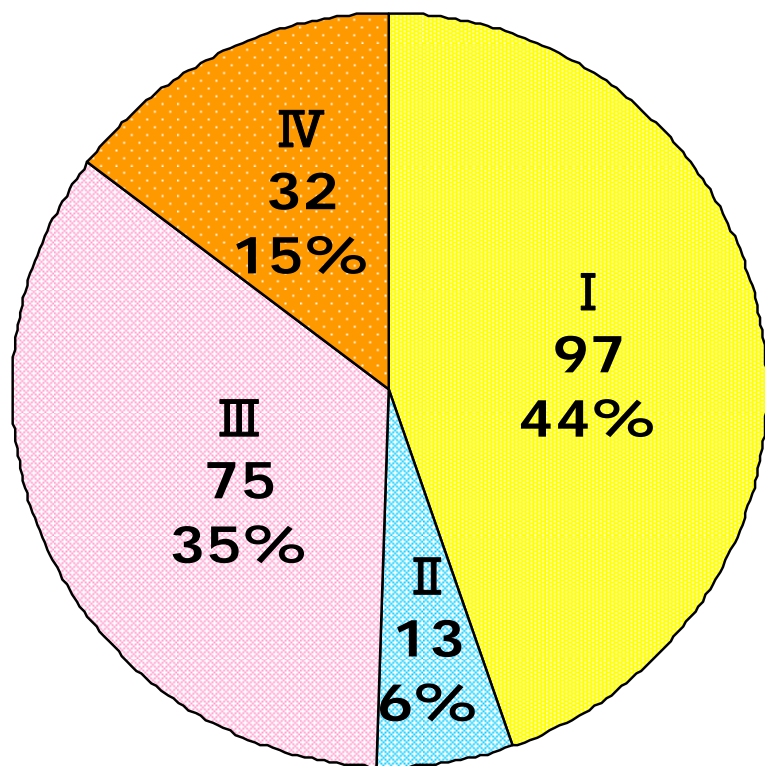
院内がん登録 甲状腺癌 形態別病理組織名別登録数



院内がん登録 甲状腺分化癌

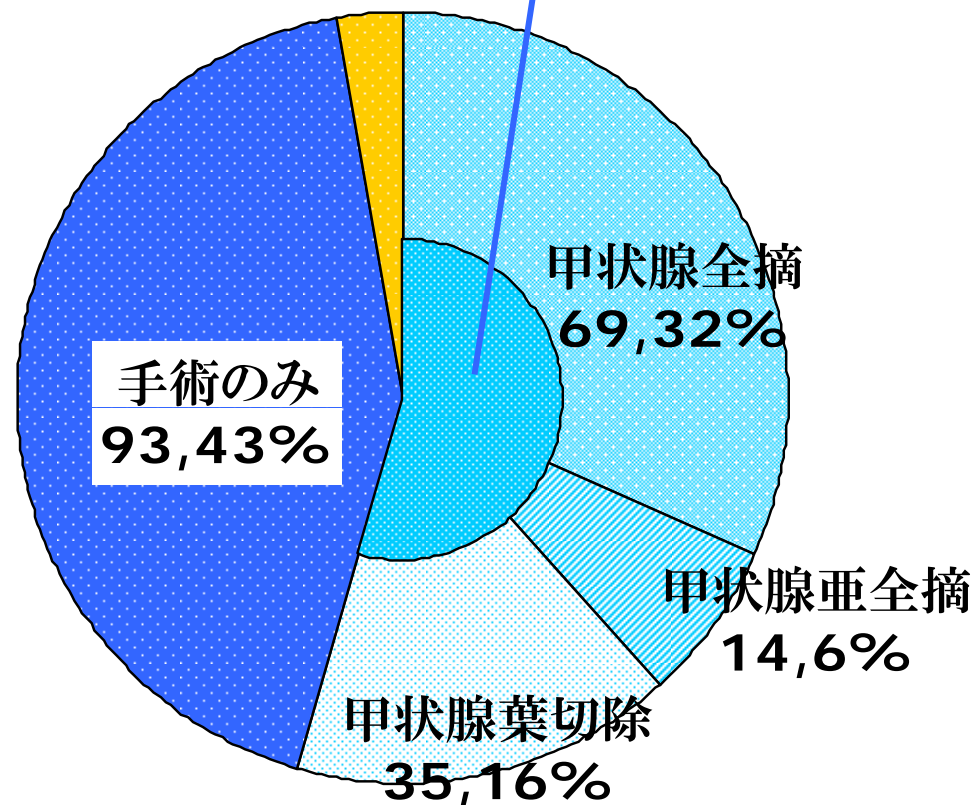
最終ステージ別登録数&初回治療別症例数

2007年～2012年
217例 (分化癌のみ)



経過観察
(高齢・他疾患併発)
6,3%

手術+内分泌療法
118,54%



平成24年11月 388施設実名入りの情報公開（今回で3度目）

国立がん研究センターがん対策情報センターから 院内がん登録「施設別集計結果」が一般公開される

「がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2010年全国集計報告」
2013年現在 397施設



調査の背景と目的

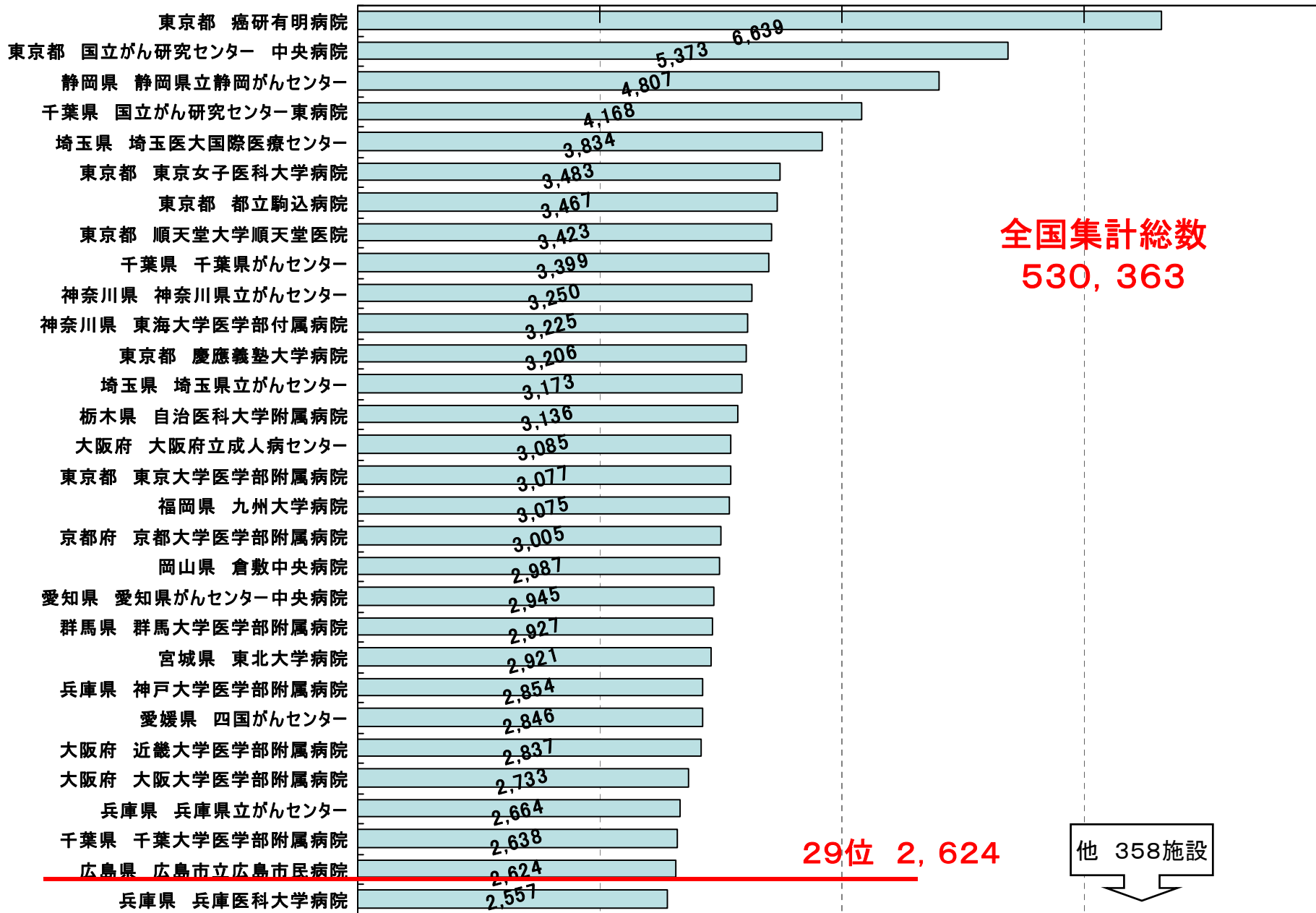
平成19年4月よりがん対策基本法が施行され、その定める、がん診療の均てん化を推進するために、がん診療連携拠点病院が指定・拡充されてきた。

これらのがん診療連携拠点病院は都道府県および地域におけるがん診療の拠点となり、各種医療機関との有機的な連携を図る役割を持つ共に、院内がん登録の体制の整備を通じて施設の実態を把握し、さらに国レベルでのがん対策の進捗を評価するために、そのデータを国立がんセンターがん対策情報センターに提出することが指定要件として定められている。

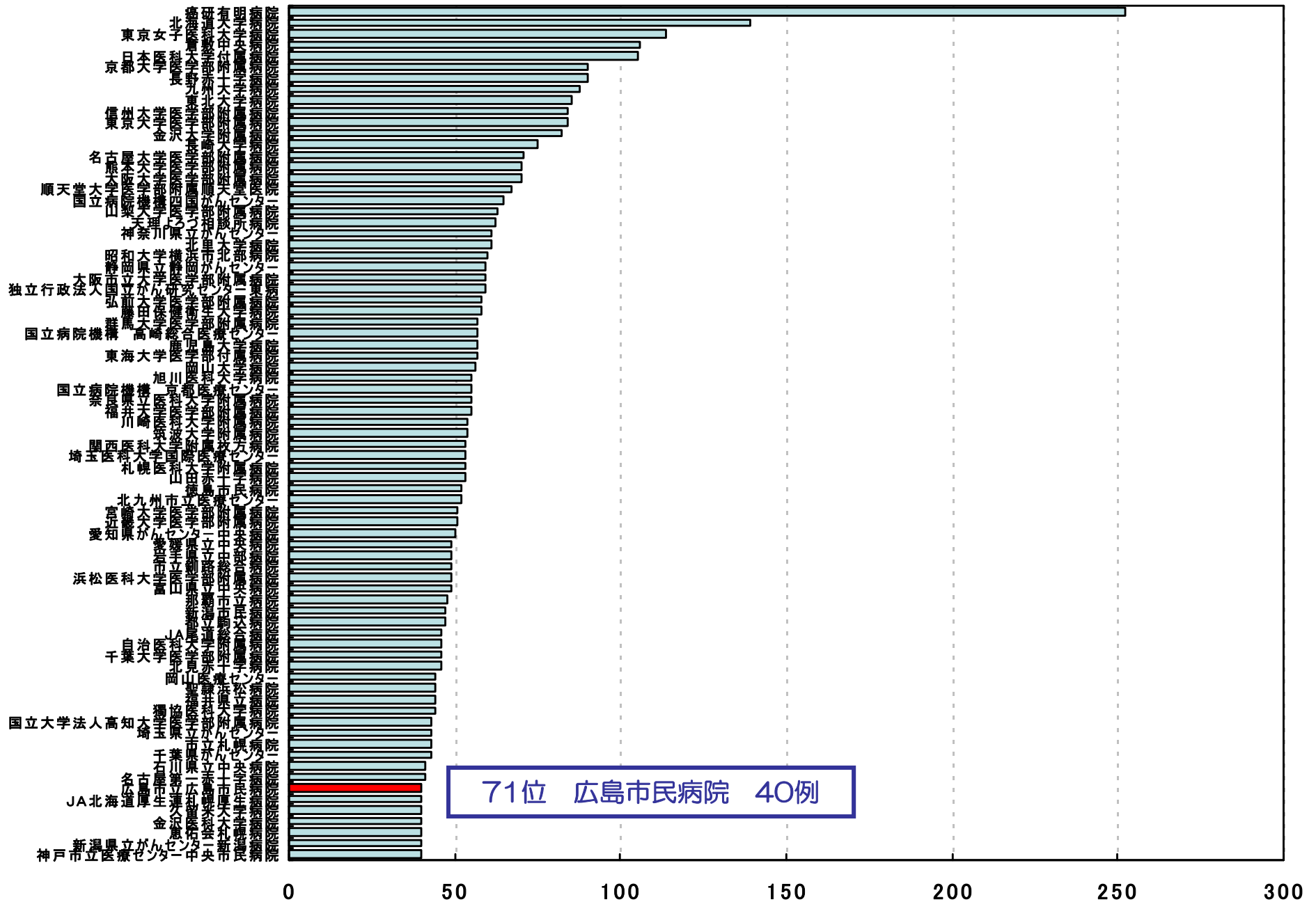
本調査の目的は、全国のがん診療連携拠点病院において実施されている院内がん登録のデータを集計することにより、以下の基礎資料を提供することにある。

- ①各がん種、進行度、その治療の分布を把握し、国や都道府県のがん対策に役立てる
- ②各施設が全国と比較した自施設のがん診療状況を把握し、がん診療の方向性等を検討する

全国がん診療連携拠点病院「院内がん登録」2010年集計結果(登録総数)388施設中上位30位 (セカンドオピニオン他を除く)



全国がん診療連携拠点病院「院内がん登録」2010年集計結果 (387医療機関別 甲状腺癌 登録数 9351例)上位75位



広島県診療連携拠点病院「院内がん登録」2010年集計結果 (11医療機関別 甲状腺癌 登録数 295例)

